

なんでせんそうがおきるの

うるま市立兼原小学校二年 仲松 咲輝

二年まえのはる、おかあさんのいもうとがなくなった。がんばりやうきだった。

おばさんがいきているとき、のこされたじかんを、たいせつにすごしてほしいと、わたしのおかあさんは、ねがっていた。

でも、いとこたちは、たかいお金をはらって、びょうきをなおそうとしていた。

まい日のように、おかあさんたちは、けんかをしていた。

わたしは、おとうさんに、なんでおかあさんたちは、けんかをしているのと、きいた。

「おかあさんも、いとこたちも、自ぶんが正しいとおもっているんだよ。せかいじゅうでおこっているせんそうも、自ぶん

たちが正しいというせいぎを、いいあっているんだよ。」

と、おしえてくれた。

それをきいて、わたしは、思った。

おたがいの「せいぎ」が、ちがうと、いつてかんけいのない人たちがすむいえや町を、こわしているの？

ばくだんや、てっぽうで、人のいのちをうばっていいの？

なんで、せんそうをしないといけないの？

なんで、はなしあい、わかりあえないの？

わかりあうことが、そんなにむずかしいのかな？だからせんそうがなくなるのかな？

わたしには、せんそうを、とめられないけど、かんがえることなら、できる。

せんそうが、おこらないためには、どうすればいいのかな？

まずは、いまのわたしにできることからやってみよう。

きょうだいや、ともだちと、けんかをしないようにする。

けんかになったら、たたいたりしない。おたがいに、はなしあいをする。

そして、ごめんなさいをして、なかなおり。せかいじゅうの人たちが、わかりあえて、なかなおりできるといいな。

そして、せんそうがおきない、せかいになりますように。

わたしの、大好きな、かぞくや、インコ、おともだちと、ずっとなかよくすごせますように、わたしは、いのりをつづける。